宮城県助産師会便り

みやぎ子育て・女性健康支援センター

20120110 発行第 5 号

983-0045 仙台市宮城野区宮城野 2 丁目 7-48-101
一般社団法人宮城県助産師会

3.11から10か月‥ 助産師たちのきろく

新年のごあいさつ　　「辰」とは草木が盛んに成長し‥

会長　　新田みつ子

＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝

初春　辰年。

H123.12.17　仙台市増沢トヨ氏と共に

「辰」は本来の読みは「しん」で原字は「蜃」「漢字律歴志」では「動いて伸びる」「整う」の意味とし、草木が盛んに成長し形が整った状態を表すと解釈されているようです。

まさに今年です。

昨年の 3.11　東日本大震災から１０ヶ月経ちました。会員の皆様におかれましては、助産師魂を十二分に発揮していただきありがとうございました。これからも支援が必要です。個々のニーズを細やかに受け止め、日常性を一日も早く取り戻すことができるように母子と共に歩みましょう。

今後も皆様のご意見、ご希望を大切に活動してまいる所存です。

ご協力よろしくお願いいたします。

平成 24 年度一般社団法人総会のご案内

平成 24 年 4 月　　日(日) 仙台市エルパーク仙台 6 階ギャラリーホール

10:00 基調講演　13:00 総会　　万障お繰り合わせの上ご参集下さい。

柴田町　伊藤祝子氏

平成 23 年度第一生命　　保健文化賞受賞

＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝

戦後の混乱期以降、産婆として家庭分娩 2500 件を安全に介助するとともに、母体保護のため産後の休養、栄養、衛生面のみならず、家族、地域の衛生思想の普及に尽力するなど、家庭・地域への保健衛生知識の普及と母体保護のための顕著な保健指導活動に貢献したことにより受賞なさいました。

御礼の挨拶

伊藤祝子

第一線で、日々活躍されている助産師の皆様、大変お疲れ様です。

伊藤祝子は、ご指導とご協力を頂いた方々のお蔭様で、地域医療を続け、為すことができました。

このたび、一木衣料の貢献に関わる保健文化賞を受賞致しました。その旨で皇居にて、天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜りました。

皆様、大変お忙しい中、受賞記念のお祝い会を設けて頂きまして、どうもありがとうございます。

伊藤祝子は、助産師会の皆様の仲間であることが大変にうれしいことであります。

助産師会の皆様、今後ともいつまでもよろしくお願い致します。

皆様がご健勝にて、益々ご活躍されることを望んでおります。

ありがとうございました。

第６３回 保健文化賞受賞者
ホテルオークラ東京　オークルーム にて
平成２３年10月２５日に記念撮影

贈呈式 平成 23 年 10 月 25 日（火）

於：ホテルオークラ東京

避難所慰問から母子支援事業まで

副会長　後藤美子

＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝

宮城県助産師会は被災直後の会長声明の「自分ができることをそれぞれ自己責任の元にやりましょう。」のとおり、会員各自がそれぞれ地道にそして精力的に活動されました。

１・被災直後の主な活動

・避難所への支援物資の搬入（ミルク、ミルク用の湯、オムツなど）
・避難所でのボランティア活動（被災者の食事等の世話）
・支援物資の調達と配布（生活用品等）
・事務所での母子への入浴サービス（
・電話相談など（育児不安、放射線のことなど）

震災直後は公的機関の機能が麻痺した状況で被災妊婦や母子の情報がなかなか得られませんでしたが、会員同士の連携で必要な方への支援が少しはできたのではないかと思います。支援物資の調達は会員個々のネットワークも活用して、多くの方々から多大なご協力いただけました。支援物資の配布においても他団体の皆様との協力の元、盛大に行えた会員も多数です。

２・ライフライン復旧後の活動

被災母子の支援を助産師会として出来ることは何かと検討模索し、日本財団、ジョイセフからの経済的助成をもとに事業担当者と話し合い、以下の母子支援活動を 6 月から開始いたしました。

・被災母子の家庭訪問事業
・被災者への助産院における保健相談および乳幼児育児相談支援事業
・産後の助産院および入所施設における入所サービス
・出産後施設退院者へのプレゼント配布および情報提供事業

上記の活動は勤務部会の皆様や市町村の母子担当の皆様の入院中のお母さんへの情報提供、保健指導部会、助産所部会の会員の皆様の精力的な活動により、大きな成果が得られております。ジョイセフ支援の被災母子の家庭訪問事業、被災者への助産院における保健相談および乳幼児育児相談支援事業は 12 月末日で終了いたしましたが、育児に不安や戸惑いの大きかった母子にとっては大きな力になったのではないかと思います。

産後の助産院および入所施設における入所サービスは 3 月末日までとなりますが、一人でも多くの方々に活用していただき、母子がひと時でもリラックスして過ごして頂ければと願っております。

３・今後に向けて

宮城県助産師会の母子支援事業は 3 月末で終了いたしますが、母子への支援は今後も継続しなければならないことと考えております。経済的支援はできなくても精神的支援は可能と考えております。日本助産師会本部から各助産師ができる範囲で妊婦、母子を対象にしたサロンの運営を企画してはとの提案がきています。決定ではありませんが、多少の助成金があるかもしれません。宮城県助産師会会員の皆様の力を結集し活動したいものです。

東北大学病院産科病棟の東日本大震災記録

東北大学病院婦人科病棟
看護師長（前産科病棟）後藤あき子

＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝＝＋＝＝＊＝

東北大学病院はベッド床が1,308床・東西17階まで病棟があり、産科病棟は東6階に位置している。平成23年3月11日（金）14時46分地震発生時、東６階の産科病棟（42床）には入院患者さん28名・新生児5名が在室・分娩進行者が２名おり、すぐに患者さんの安全確認をした。付添いのいない個室の妊産婦さんにはスタッフを配置、その後デイルームに集めた。5人の褥婦には防災用スリング（新生児の抱っこバンドと防災頭巾）を配布し、全員防寒具を着て貴重品を持ちいつでも避難できるよう指示した。ご家族の避難場所は第2中学校に指示されたが当科の利用者はなかった。徐々に休みや夜勤明けのスタッフが駆けつけ救急部等に応援に入った。

20時ころからは他施設が被災のため帝王切開術が困難となった患者など、急患搬送が翌朝まで続いた。中には津波に遭い意識のない妊婦搬送、という連絡あり（一緒に来た方も裸足のまま足の包帯には血がにじんでいた）その後到着し妊婦さんは助かった。所持金も携帯電話も流されて何もない…。廊下のソファーに眠る小さな子供に毛布を掛けてあげることしかできなかった。翌日、母児のみの帰宅不能者に関して13階の空き病棟に入室許可がおりたが、退院扱いのため、給食もなく（ミルクもない）入れない状況だった。結局空床のある病棟に次々転棟させた。

手術室が使用不能となったため、12日の分娩3件のうち、1件は分娩室で帝王切開術を実施した。以後も連日手術が続いたが数年前から超緊急帝王切開術実施に向けての訓練を行っていたのでスムーズに病棟で手術ができた。分娩数は1日5件から8件、1日入院数6名から7名、と多く推移した。

急患は13日に13名、それ以降も連日（２日間）14名等と多かった。病床稼働率は14日以降100％近い数値で推移し（16日は100％）1日在室新生児数も11名～19名と多い日が続き、マンパワー不足のため休みのスタッフを夜間に出勤させた日もあった。14日に産科外来を再開し、病棟から助産師2名を派遣しトリアージをしながら実施できた。

15日には被災地（開業産婦人科）の助産師から応援の連絡があり、数日分娩介助等をしていただき大変助かった。この日は公立気仙沼病院から妊産婦のヘリコプター搬送が1日で7名あった。また、他施設からの妊産婦搬送増加のため入院期間の短縮を開始した（産後3日目退院、帝王切開者は5日目に抜糸して退院）。退院時、Ｋ２シロップをシリンジに入れて持参させ、地域の開業助産師（宮城県助産師会）をマップを活用しながら紹介した。

災害対策本部を東４階に立ち上げて病院長が指揮をとり、連日1日2回本部会議（多職種）が開かれた。震災直後は断水と停電（しばらく自家発電）でトイレ問題が発生したが、何とかクリアした。セキュリティードアは動かなくなったが、病棟内の大きな施設破損や機器破損はなかった。都市ガスが長期間止まりボイラー使用不能で給湯は全く無く、暖房も利かず病院は寒くなった。産科病棟には褥婦用に幅広ベッドが10床あり、赤ちゃんはいつも母親と隣り合わせだったため寒さは乗り切れた。電話は院内ＰＨ

Sが時々使用できたが殆ど全てが紙と口頭伝言で動いた。患者給食は、夕食からしばらくの間非常食をスタッフが準備し配膳した。ミルクは病棟で作成開始（自家発電によりポット使用・瓶の消毒は専用消毒液）をしたがほとんどが母乳栄養のため回数はわずかであり、3日後ミルクは栄養管理室で作成可能となった。翌日、シーツと毛布が不足になると連絡があり、全ての物の節約をした。14日に中材の高圧滅菌が不能となり、医師が数か所の施設回り（1日2回）をして協力し合い、24日にやっと復旧した。給湯が不能のため洗髪希望者（10名以上）には洗髪機で湯を保温し、病院内ボランティアに洗髪をしてもらい助かった。病院ボランティアは（主に東北大学学生）900名以上に上った。気仙沼と石巻に医師がお産セットを持参し支援もした（後日業者からの料金請求はないことになった）。16日（水）には、おむつが不足し、手配をしたが手違いで他部署や他施設に全て運ばれてしまい、非常に苦労した。災害対策本部に産科分の確保を直接依頼した。17日（木）新生児用エコリシン点眼液が不足し、使いまわしその後は使わない方向となった。新生児の着物も病棟で洗濯をしたりしていたが23日から院内業者が再開となった。4月以降、宮城県助産師会から妊産婦さん用の支援物資が届き、産科病棟に運ぶことができた。

スタッフの安全確認は最終的にできたが、家族や親戚が津波に遭ったり、実家が流されたり床上浸水になったりしたスタッフがいた。涙を流す姿や辛い姿を見つけては休みをあげたが、間もなく自主出勤して黙々と働く。家にいても何もできず苦しかったのだろう。通勤困難者が続出し（交通手段・ガソリン問題・けが）、やむなく面談室や洗髪室で何日も夜を明かしては働いた。現地で救援活動するスタッフもいた。

思い返せば、エレベーターが復旧するまでの間の階段（17 階まで）の往復では、患者さんの移動や報告連絡のために本当に大勢の人と挨拶を交わしながらすれ違った。挨拶はあたたかく、階段はとても狭いと感じた。炊き出しでいただいたおむすびの美味しかったこと。空腹と水分不足の日々。病院でのボイラーが作動せず、自宅のガスも 1 か月以上復旧せず、水でのシャワーの辛さを味わった。みんなで苦しみ、助け合ったことが昨日のようによみがえる。医師看護職・事務職等々、全ての人が１つに繋がり、病院は寒かったが心はとても暖かかった。生きなければ！あげられる愛をあげなければ！会議はいつも立ったままで骨折中の私は苦しさのせいもあったのか、時々脳貧血状態になったが倒れる前になんとか廊下に出て座り、聞き耳を立てた。自宅にたまに帰り、地域に貢献できなかったことを悔いた。町内会避難所で活動してクタクタになった近所のおばさんに水を運び、少しの食事を運ぶことしかできなかった。命と絆を大切にしながらこれからできることをまた前向きに取り組んでいきたい。

被災母子支援事業の報告

会計　山岸和子

＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝

被災された妊産婦のニーズを把握し、里帰りできない母子においては、助産所への入所、あるいは、助産師が被災された妊産婦のご自宅に伺ったり、助産所に来ていただいて、産後の母子保健サービス、母乳育児支援を行なう、そのことによって、産後の心身の安定と子育てに安心し、自信をもって地域に帰っていただくことを目的とし事業を展開しました。

１．「産後の家庭訪問、助産所における育児相談、母乳育児支援事業」

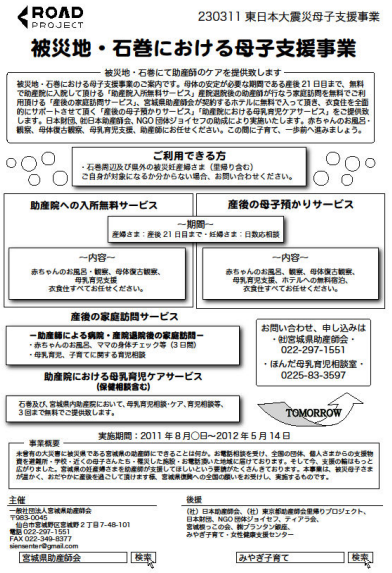
（社）日本助産師会と NGO 団体ジョイセフの助成により実施

震災直後より 12 月 20 日時点で、家庭訪問 339 件、来所による育児支援 2083 件に助成をしました。被災された母子にとっては、産後の育児不安や生活環境の変化からくるストレス、大きな問題をかかえながらも、少しでも安心でき、前を向いて育児ができるよう希望を持つ事ができたと思います。また、支援に関わった助産師にとっても、元気になれる事業だったのではないかと思います。

２．「助産所、石巻ホテルにおける母子預かり事業」

日本財団の助成により実施

12 月末時点で、県内の助産院と石巻ホテルで、のべ 36 組の母子を受け入れていただきまた。のべ日数は 392 日、パパや上の子の宿泊はのべで 165 泊に助成しました。暖かいところで、家族と一緒に安心して育児ができ、実家へ帰ったように穏やかに過ごしていただけたと思います。３月末までの助成となりますので、１人でも多くの方にご活用していただきたいと願っております。


ROAD PROJECT

230311 東日本大震災母子支援事業

被災地・石巻における母子支援事業

被災地・石巻にて助産師のケアを提供致します

被災地・石巻における母子支援事業のご案内です。母体の安定が必要な期間である産後 21 日目まで、無料で助産院に入院して頂ける「助産院入所無料サービス」産院退院後の助産師が行なう家庭訪問を無料でご利用頂ける「産後の家庭訪問サービス」、宮城県助産師会が契約するホテルに無料で入って頂き、衣食住を全面的にサポートさせて頂く「産後の母子預かりサービス」「助産院における母乳育児ケアサービス」をご提供致します。日本財団、社日本助産師会、NGO 団体ジョイセフの助成により実施いたします。赤ちゃんのお風呂・観察、母体復古観察、母乳育児支援、助産師にお任せください。この間に子育て、一歩前へ進みましょう。

ご利用できる方

・石巻周辺及び県外の被災妊産婦さま（里帰り含む）
ご自身が対象になるか分からない場合、お問い合わせください。

助産院への入所無料サービス	産後の母子預かりサービス
～期間～ 産婦さま：産後 21 日目まで・妊婦さま：日数応相談	
～内容～ 赤ちゃんのお風呂・観察、母体復古観察、母乳育児支援 衣食住すべてお任せください。	～内容～ 赤ちゃんのお風呂、観察、母体復古観察、母乳育児支援、ホテルへの無料宿泊、衣食住すべてお任せください。

産後の家庭訪問サービス

－助産師による病院・産院退院後の家庭訪問－
・赤ちゃんのお風呂、ママの身体チェック等（3 日間）
・母乳育児、子育てに関する育児相談

助産院における母乳育児ケアサービス（保健相談含む）

石巻及び、宮城県内助産院において、母乳育児相談・ケア、育児相談等、3 回まで無料でご提供致します。

お問い合わせ、申し込みは
・社宮城県助産師会・022-297-1551
・ほんだ母乳育児相談室・0225-83-3597

TOMORROW

実施期間：2011 年 8 月○日～2012 年 5 月 14 日

事業概要

未曾有の大災害に被災県である宮城県の助産師にできることは何か。お電話相談を受け、全国の団体、個人さまからの支援物資を避難所・学校・近くの母子さんたち・電災した病院・お電話頂いた地域に届けております。そして今、支援の輪はもっと広がりました。宮城県の妊産婦さまを助産師が支援してほしいという要請がたくさん来ております。本事業は、被災母子さまが温かく、おだやかに産後を過ごして頂けます様、宮城県復興への全国の願いをお受けし、実施するものです。

主催

一般社団法人宮城県助産師会
〒983-0045
仙台市宮城野区宮城野 2 丁目 7-48-101
電話 022-297-1551
FAX 022-349-8377
siementer@gmail.com

宮城県助産師会　検索

後援

（社）日本助産師会、（社）東京都助産師会里帰りプロジェクト、日本財団、NGO 団体ジョイセフ、ティアラ会、宮城県っこの会、親プランタン親座、みやぎ子育て・女性健康支援センター

みやぎ子育て　検索

日本財団との中間協議により、平成 24 年 3 月末日までの支援となりました。

亘理町からの近況報告

岩佐あけみ

＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝

ご支援に感謝します。

すべてを津波でなくし、今日まで必死に生きてきました。暮らしを立て直すには、遠すぎる道のりに茫然としています。なにか原稿を・・と依頼を受けましたが、やるべきことが多すぎて、うまく報告をまとめられそうにないので、写真の紹介で、お許しください。

全壊した自宅の前に転がっているのは、うちの冷蔵庫です。夫の仕事場も全壊。

現在は、大河原の狭い借上げ仮設にて、親子５人ぎゅうぎゅうに暮らしています。

避難中は、川で洗濯をしました。

町は本当に、何もなくなってしまいました。

命からがら津波から生き延びた私は３月３月１２日から、町の救護所で、けが人の救護や、避難所の衛生管理を任されました、インフルエンザの猛威に驚きました。

４月２３日にはNGOジョイセフの支援で、「母と子の山元元気市」を行い雨の中８００人の人が集まってくれました。震災から９ヶ月。町は時間が止まった用に何も進まず、子供たちは町から出ていくしかない状況で、いままでと変わらずやっています。

近況報告でした。

２０１１年１２月

山元町　岩佐　あけみ

震災と母乳育児支援報告

かとう母乳育児相談室　　加藤美江子

＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝=+=＝＊＝

乳腺炎の方のマッサージを終え、次の方をベッドへ案内しようとした時でした。私を含め 3 人の携帯から今まで聞いた事のなかった緊急地震速報の音が相談室に鳴り響き、「何？何？」と思った瞬間、いきなり大きな揺れが襲ってきました。お母さん達と「宮城県沖地震？」と身構え、終わるかなと思ったのも束の間、再び大きな揺れが。私自身は十勝沖地震（1966 年）をはじめ、大きな地震を何度か経験しており、「備えあれば憂いなし」と、当相談室を開く際には窓ガラスにフイルムを貼り、背の高い家具は置かず、簡易用トイレの準備等、地震に対する準備はしてきたつもりでした。幸いにも、今回来所されていたお母さんやお子さん達に怪我もなく、本当に良かったと思いました。しかし、幾つか問題点も見えました。

・オムツは各サイズ 1 パックずつあるものの、それをお母さん達にあげると予備がなくなってしまった事。
・3 日分の非常用準備では、全く足りなかった事。
・当相談室の暖房はガスによる温水ルームヒーターであるため、非常用に石油ストーブは用意していました。しかし、灯油の準備をしておらず、又手に入り難かったため、使用出来なかった事。（ライフラインは、電気は 3 月 14 日、水道は 3 月 26 日、ガス復旧には 4 月 16 日と 5 週間かかりました）　　等です。

道路に至っては、青葉城趾から八木山動物園に抜ける八木山橋と、霊屋橋から登ってくる鹿落坂が崩れて通行止めになり、更にガソリンが手に入り難くなった事もあり、お母さん達の来所は震災から 2 週間後からで、人数も 1 日に 1 人か 2 人位でした。その間、私は近くの避難所として使われている小学校や中学校を回りましたが、数日もしないうちに赤ちゃん連れの家族は殆ど見られなくなっていました。電気や水道が止まった状態ではミルクをあげられず、又、暖をとれない等で実家や親戚、友人を頼って避難していたのでした。唯一母乳で育てているお母さんが 1 人残っていて「着替えがなくなって困っている。」と言うので、当相談室にあったものと宮城県助産師会から届けていただいたものを差し上げ大変喜ばれました。

電気が回復し、固定電話も使えるようになってからは電話相談が多くなりました。以前来所されたお母さん達からで、なかには山形や秋田、東京など実家や親戚宅に避難されていた方もおり

・おっぱいが出なくなった気がする。
・おっぱいを飲む回数が増え、今まで一人で遊べるようになっていたのに片時も離れなくなった。
・4 月から仕事が始まるのに保育園も決まらず、子供を実家に預けたままで離れればなれになる。仕事復帰してもおっぱいを飲ませていきたかったのにどうしたらいいか。　　等でした。

電話相談で一番辛かったのは、震災から 2 週間以上経った日曜日のこと、石巻の避難所に居る友人の事で相談したいという仙台在住の方からでした。「3 ヶ月の乳飲み子と自分は助かったが、御主人と 3 歳の息子は目の前で津波に飲み込まれた。」とのメールをもらいようやく安否確認はできたが、おっぱいが止まらないようにするにはどうしたらいいか。何か力になりたいという内容でした。私も話を聞いているうちに、母乳を飲ませていくことで、石巻の友人がなんとか生きる希望を失わないで欲しいと願わずにはいられませんでした。

宮城県助産師会に届いた支援物資を亘理町や山元町に届けに行った時、かつて見ていた風景が津波によって

変わり果てたその爪痕に、頭の中が真っ白になり直ぐには受け入れられませんでした。大震災後、母乳育児支援というより、支援物資を運び、電話相談をうける事くらいしか出来ませんでした。

雪が降る季節になり 9 ヶ月たったあの日を思いだし、まだみつかっていない方やその家族の人達、今も避難されている人達を思うと胸が苦しくなってしまいます。

宮城県助産師会 3.11 被災母子支援事業の様子

とも子助産院にて

とも子助産院にて

とも子助産院支援物資頒布

助産院のお食事

＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝+＝＝＊＝＝

編集後記

書記　田村雪子

3.11 その時、助産師会事務所で総会資料作成をしていました。大概の事は様子を見る私ですが、あの時はハンドバックとジャンパーを持ちストーブを切り、事務所前の宮城野 2 丁目カラ一歩道に出ました。電柱の大きな揺れに尋常ではない恐れを感じました。事務所を片付け夕刻 6:00 に帰宅。5 階の我が家は家具・食器が散在し、停電、断水、ガスは見込みなし(復旧に 1 か月かかりました)。続く余震。集合住宅に住む私は小さな子どもたちの水の確保が第一と考え避難所に手配。小さな子を持つママを避難所へ送迎。夫利府から徒歩にて帰宅。夫は自治会救援へ。友人と車中泊。降りしきる粉雪。友人カーナビに映る映像は現実感なし。息子は(工業高校教員)は生徒さんたちがすぐ食べられるインスタントラーメン等を自転車で持ち帰る。娘は東京にて就活中。20 日間帰れず。

宮城野は 3 日目に電気・水道復活。事務所へ。ネットを繋げ、電話は携帯転送にした。会長とやっと連絡がとれ、後藤副会長と共に会員の安否確認。石巻、気仙沼、蒲生、閖上が通じない!!　携帯も通じない!!　メールも!!　日本沈没かとも思われた通信不通状態であった。

このような中、事務所に新田みつ子会長のご主人が運んで下さった石油。自宅の米をリュックサックで運んで下さった後藤副会長。会議ごとに栗原市からどうやっていらしたのやら今だにお聞きしていない石川副会長。原発が爆発した 3 日目に会計処理に事務所にきた会計さん‥　　時間の経過と共に情報が伝わってきました。勤務の方々のご苦労、保健指導部の実直な活動、開業助産師のたくましさ。この紙面で恐縮ですが、私の周囲の方々が助産師であることにこれほど誇りを持ったことはありません。また、この機関紙を編集しその感は深まりました。素敵なたくましい女性たちの団体であると。

この頃助産師会役員・理事として関わった 10 年間に思いを寄せています。

野窪光子前々会長から新田双葉前会長、そして現新田みつ子会長へと宮城県助産師会は繋がりました。この間書記として皆様とご一緒させて頂きました。　・男性助産師問題・支援センターの立ち上げ・支援センター事務所の確保(仙台市公共施設)・機関紙発行　・本部会館基金の完納　・助産師会 HP 開設　・助産師会事務所の確保　・宮城県委託事業　・一般社団法人の取得　・開業助産師マップ助産師会発行　・東北地区研修会の開催。そして今震災の対応が最たるものかと存じます。理事・役員のご苦労を共にして参りました。

個人的には看護職関係の先輩方ご紹介で、3 校の大学、2 校の専門学校の「小児保健」「小児保健実習」の講義をさせて頂いております。礎は助産師教育、助産師研修会があるから可能なことです。感謝しております。

今後とも、職能団体として団体で動くこと、社会に向けて真摯に向かい合うことを臨み、長い編集後記と致します。